

なるほどのっ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報 今月のトピック紹介版

3月号



ICTを活用した授業づくり

**組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
新年度のスタートに向けて**

**「特別支援教育ほっと通信」
移行支援会議について**

授業の中で、ICTをどう活用したらいいの？

1月28日、文部科学省の笠井健一調査官を講師として招聘しリモート講演会を開催しました。小学校算数科の授業づくりについて御講演いただく中で、「算数・数学科におけるICTの活用」に関しての情報も御提供いただきました。資料等についてご紹介します。



算数・数学科におけるICT活用の必要性

○算数・数学科の教科に求められる観点

- ・**具体**を通して、**算数・数学の内容を確実に理解し、数学的に考える力を育成**することが必要。
- ・日常生活や社会の複雑な事象の問題を解決するために、**様々なデータを収集・整理・分析**し、その結果をもとに判断・表現できる力の育成が必要。

○ICT活用にあたっての算数・数学科の特質

- ・小学校算数科では、**具体的な体験を伴う学習等**を通じて、**児童に算数の論理を理解させることが大切**であり、教師の丁寧な指導のもとで**ICTを活用する場面を適切に選択**することが必要。
- ・中学校・高等学校数学科では、**学習内容の抽象度が高まるとともに、複雑な問題を扱う学習等が増加**するため、ICTの活用で理解を促進。

ICTを効果的に活用することが重要

ICTを活用する場面を適切に選択することが重要

小学校算数科におけるICTの活用例

図形指導の充実

プログラミングで正多角形をかく。図形を動的に変化させる。

表やグラフの作成

多量なデータでも、目的に応じていろいろなグラフを一瞬で簡単に作成できる。

学び合い時

子どもの記述内容を一瞬で転送し、情報を共有することができる。

こちらのQRコードから、「算数・数学科におけるICT活用について」の資料と、調査官による解説動画をご覧いただけます。ぜひ、ご活用ください。



その他の教科における解説動画及び資料

右のQRコードから、文部科学省のサイトにアクセスしていただくことができます。



鳥取県教育委員会作成の「**とっとりICT活用ハンドブック**」も、ぜひ、ご活用ください。



千エツワ!

この1年の取組を振り返ってみましょう

①授業

- 生活・学習しやすい環境づくりを心がけましたか。
- 学習規律等、学校や学級のルールが徹底できましたか。
- 子供が活躍できる場を意図的に設定するようにしましたか。



②関わり

- 「あれ?」と思う子供の姿を見過ごさないように意識しましたか。
- 子供の思いを丁寧に聞くように心がけましたか。
- 子供の熱意や頑張りをしっかり認めるようにしましたか。

③チーム対応

- 気になったことは、小さなことでも報告しましたか。
- 子供の様子等、気が付いたことや報告した内容をメモで残すようにしましたか。
- 不安なことや分からないことは、すぐに周りの教職員や管理職に相談しましたか。

今年度の「西部教育局からのお役立ち情報」やこれまでのバックナンバーも確認してみましょう。

4月号「学級びらき」 5月号「変化を見抜く」 6月号「コロナ禍での対応」

7月号「不登校への初期支援」 9月号「学級経営」 10月号「いじめ対応」 1月号「問題行動への対応」



ここがポイント!

新年度体制に向けた取組

◆子供の状況について、全教職員で情報を共有する。

- ・欠席、遅刻、保健室来室日数、う歯(虫歯)数や諸費用支払いの遅れ等
- ・いじめや問題行動等の事案について、指導記録や観察を通して把握した実態
- ・入学前の欠席状況や生活の様子等、新入生の状況

◆学校のルールやいじめ・不登校・問題行動等への対応方針を全教職員で確認する。

- ・全学年で共通した学習規律や学校生活(給食・集会・部活動等)のルール
- ・学校いじめ防止基本方針や不登校の子供への対応、問題行動発生時の対応マニュアル等
- ・校内での報告、連絡、相談の方法

切れ目のない支援を行うために、前学年からの引継ぎ事項等を、アセスメントシート等を活用して、全教職員で確認しましょう。

管理職や生徒指導担当者を中心に、全教職員で共通理解を図り、取組を確認することが大切です。紙面で終わりではなく、職員会議等で協議したり説明したりする場を設定しましょう。





特別支援教育ほっと通信



令和3年3月
西部教育局

移行支援会議 - 引継 -

進学等の際に、「どのような支援があれば、子供たちが安心して学校生活を送ることができるのか」を確実に伝え、新しい環境でできる支援を検討する会議

【参加者】 保護者、進学先の教職員、在籍学校の教職員 等

【内容】 ①学校や家庭での児童生徒の様子や支援の内容を、進学先の教職員に伝える。
②保護者の希望に沿って、個別の教育支援計画等を引き継ぐ。

移行支援会議の進め方のポイント（小学校から中学校への例）

【次第の例】

第 回 移行支援会議

1. 日時 平成 年 月 日 ()

【開催場所の工夫】

- ・ 1回目は在籍校で開催
- ・ 進学の時期が近くなれば、進学先の学校で開催

2. 場所 ○○立○○小学校

3. 出席者 保護者
○○小学校
□□中学校
◇◇（関係機関）

【事前に連絡】

- ・ 保護者にお話いただく内容は、じっくり考えられるように余裕をもって伝えること
- ・ 出席できない関係者には、事前に助言等を聞き取っておくこと

4. 目的 (○○さんが) スムーズに中学校生活を送ることができるように、関係者が情報を共有し合い、よりよい支援ができるようにする。

【目的の共通理解】

- ・ 参加者全員が正しく理解すること

5. 支援の経過と様子

- (1) 小学校より
- (2) □□□□より
- (3) ◇◇◇◇より
- (4) 保護者より

【支援の検討】

- ・ これまで行われていた支援を土台（継続）とし、新年度からできる支援について検討すること
└（学習面、生活面、社会性・対人関係面 等）

6. 今後の方針

【保護者の安心感】

- ・ 児童が在籍している学校の先生が司会進行
- ・ **和やかな雰囲気**で会が進行できるような環境の工夫



お花を飾るワンポイント！

【個人情報保護に留意】

会議後に個人情報が流出しないよう、「**レジュメ等は保存用を除いて廃棄する**」などの対応が必要

「支援会議-校内での支援を検討-」については、
ほっと通信（平成30年7月号）を御確認ください。

